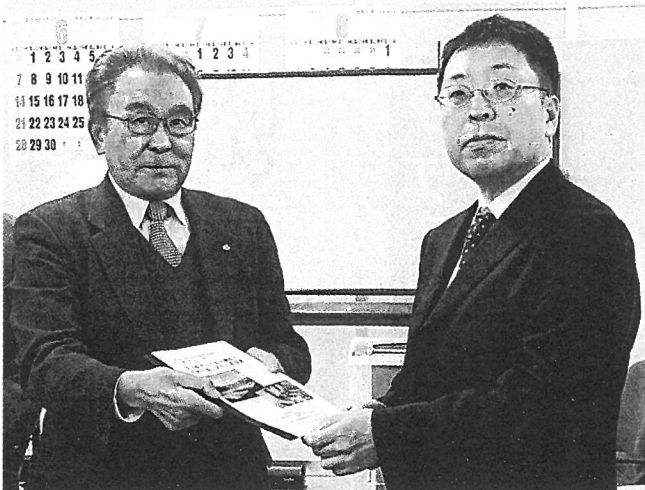


国に堆積土砂対策要望

小水力発電で 土地改良関係者 想定発電量得られず

妙高市の 笹ヶ峰ダム



齋藤理事長(左)が北陸農政局関川用水農業水利事業所の横田所長に要望書を手渡した

妙高市の笹ヶ峰ダムから運転を開始した小水力発電所は、7月から

堆積した土砂などの影響で想定した発電量を得られていない。発電所の運転・管理を行う

理費用などに充て、農業者の負担軽減につなげる仕組み。

笹ヶ峰発電所経営管理委員会と関川地区土地改良区連合は25日、北

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

陸農政局関川用水農業水利事業所(上越市稲

ダム管理規程の制限水位では、9月中旬から

田1)に対し、一刻も早い取水・放流機能回復を求めた。

翌年4月下旬までの水が得られない状態。現状では来年一年間の売

小水力発電所の最大出力は約1000キロワット。最大毎秒3・

電収入は、計画していた収入(約1億1000万円)の7割程度にとどまる見込み。関川

8リットルの水で水車を回して発電し、東北電力に

地区土地改良連合の齋藤義信理事長は除塵

売電する。収益は各土地改良区の施設維持管

理費用などに充て、農業者の負担軽減につなげる仕組み。

理費用などに充て、農業者の負担軽減につなげる仕組み。

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

理費用などに充て、農業者の負担軽減につなげる仕組み。

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

理費用などに充て、農業者の負担軽減につなげる仕組み。

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

理費用などに充て、農業者の負担軽減につなげる仕組み。

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

理費用などに充て、農業者の負担軽減につなげる仕組み。

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

管理水位の見直し、さらにダム内の堆積土砂撤去を含め、早急の対応を求めた。

同事業所の横田憲一郎所長は「国だけでなくダム管理者の県、

(ダムの水を発電に利用している)東北電力なども協議、連携していくべきだ。除塵装置の導入は検討段階だ」と答えた。

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した

近に土砂などが堆積し想定していた水量が得られず、県が策定した